

2022年度 医学部 IR 報告書
—2021年度卒業生の初期研修先
アンケート 現状と3年間の傾向—



藤田医科大学 IR推進センター
医学部 IR分室

2022 年 10 月 31 日

藤田医科大学 I R 推進センター 医学部 I R 分室

2022年度 医学部 IR 報告書

—2021 年度 卒業生の初期研修先 アンケート 現状と3年間の傾向—

目次

概要

1. 背景と目的
2. 対象
3. 方法
4. 結果
 - (1) 2021 年度卒業生研修先の調査結果
 - (2) 2019～2021 年度卒業生研修先の調査結果の推移
5. まとめ

資料 (依頼状、調査票)

2022 年度 藤田医科大学 I R 推進センター 医学部 I R 分室

川戸美由紀、一瀬千穂、観音隆幸、藤江里衣子、横田正明、若月徹、

中村早紀、飯塚成志、古澤彰浩、島向健太、山本正樹、吉本潤一郎

概 要

「独創的な学究精神を持った謙虚で誠実な医師を育成する。」ことが藤田医科大学医学部の使命であり、卒業時にすべての本学卒業生が身に付ける能力として「卒業コンピテンス（＜医師としてのプロフェッショナルリズム＞、＜コミュニケーション能力＞、＜専門職連携＞、＜医学及び関連領域の知識＞、＜独創的探究心＞、＜診療の実践＞、＜地域社会への貢献＞）」と、これに対応する「卒業コンピテンシー」を定めている。

数年にわたり本学が取り組んできたカリキュラム改革の効果を評価するため、本学卒業生の卒業時の能力について第三者の視点があることが望まれる。今回、2021年度の本学医学部卒業生を卒業1年目の研修医として受け入れてくださった病院の直接的指導者に研修1日目の「卒業コンピテンス・コンピテンシー」に関する諸項目の修得度を評価していただいた。また、本評価結果を過去2年度（2019・2020年度）の評価結果と合わせて、過去3年度にわたる変化を調べた。

2021年度卒業生で2022年度1年目の初期研修先が判明している104人のうち、79人について回答が得られた（回収率76.0%）。＜医師としてのプロフェッショナルリズム＞、＜コミュニケーション能力＞、＜専門職連携＞、＜医学および関連領域の知識＞、＜独創的探究心＞、＜診療の実践＞、＜地域社会への貢献＞の7項目のいずれも「“最低水準は修得できている”、“概ね修得できている”または“完全に修得できている”」と評価された者が70%を越えた。中でも＜医師としてのプロフェッショナルリズム＞と＜コミュニケーション能力＞は85%を超えており、極めて高く評価されていた。今回新たに＜独創的探究心＞が80%を越えたことが注目される。＜地域社会への貢献＞は7割台前半にとどまった。自由記載においては、コミュニケーション能力、専門職連携や医学関連知識だけでなく、卒業生の性格・人柄や診療に対する努力を評価する声も見られた。一方、コロナ禍で患者さんに接する機会が少なかったため、例年に比べて実診療に不慣れであるように感じたとの記述もあった。

2019～2021年度を通じた分析では、＜医師としてのプロフェッショナルリズム＞、＜コミュニケーション能力＞が修得できているとの評価が一貫して8割を超え、他の項目に比べて高い割合であった。＜独創的探究心＞は70.4%から81.6%と増加し、＜医学および関連領域の知識＞は86.4%から76.6%と減少傾向であった。残りの5項目では2019年度と比較すると同程度、2020年度と比較すると＜コミュニケーション能力＞など4項目で若干の低下が見られた。

本調査結果から、本学医学部卒業生は卒業コンピテンス・コンピテンシーを高いレベルで獲得しており、そのことが研修先病院からも概ね評価されていることが明らかとなった。特に＜医師としてのプロフェッショナルリズム＞と＜コミュニケーション能力＞への評価は極めて高かった。＜独創的探究心＞の獲得割合が向上したことは評価に値する。一方＜医学および関連領域の知識＞が全体としては高い割合にあるものの減少傾向である点は注意を要する。＜地域社会への貢献＞の能力についてはさらに高く獲得するための教育が望まれる。

1. 背景と目的

本学医学部は 2015 年度第 1～3 学年よりアウトカム（学習成果）基盤型教育を取り入れた新カリキュラムに移行している。「独創的な学究精神を持った謙虚で誠実な医師を育成する。」ことが藤田医科大学医学部の使命であり、卒業時にすべての本学卒業生が身に着ける能力として「卒業コンピテンス（＜医師としてのプロフェッショナリズム＞、＜コミュニケーション能力＞、＜専門職連携＞、＜医学及び関連領域の知識＞、＜独創的探究心＞、＜診療の実践＞、＜地域社会への貢献＞）」と、これに対応する「卒業コンピテンシー」を定めている。

数年にわたり本学が取り組んできたカリキュラム改革の効果を評価するため、医学部 IR 分室では今回、2021 年度の本学医学部卒業生を卒業 1 年目の研修医として受け入れて頂いた病院の直接的指導者に、研修 1 日目の「卒業コンピテンス・コンピテンシー」に関する諸項目について、その修得度を評価していただいた。第三者の視点から評価とフィードバックを受け、今後の医学部教育の見直しの資料とする。2021 年度卒業生に対する評価内容を分析するとともに、2019・2020 年度に行った同様の調査結果と合わせて変化を調べた。

2. 対象

2021 年度の藤田医科大学医学部卒業生であって、2022 年度の初期研修先が判明している研修医 104 人が対象である。なお、2019・2020 年度の調査対象者はそれぞれ 106 人と 102 人であった。

3. 方法

2021 年度の本学医学部卒業生を 1 年目の初期研修医として受け入れていただいた病院の臨床研修センター長宛に依頼文と研修医の人数分の質問票を郵送し、研修医の直接的な指導をされた方に、回答と返送を依頼した。研修医が複数名いる病院には、それぞれの研修医に対する評価を依頼した。調査実施時期は 2022 年 7 月から 9 月までであった。なお、2019・2020 年度卒業生（2020・2021 年度に初期研修開始）についての調査実施時期はそれぞれ 2020 年および 2021 年 7 月であった。

臨床研修センター長宛の依頼文および調査票を巻末に示す。アンケートには病院名を記入していただいたが、集計・分析は匿名化して行った。

調査票は A4、1 ページのマークシートで、7 つの設問に対して、それぞれ、調査対象の研修医が、研修医 1 年目の初日の能力・資質として、6 段階の評価尺度のどの段階であったかの評価を依頼した。設問は次の通りである。

医師としてのプロフェッショナルリズム	医師としての責任感と職業倫理観に基づいて行動し、生涯にわたり向上心を持ち自己研鑽に励む自覚と能力が身についている。
コミュニケーション能力	お互いの立場を尊重し、相手から信頼される関係を築くためのコミュニケーション能力が身についている。
専門職連携	患者の健康問題の解決に向け、多職種での取り組みを実践する能力が身についている。
医学および関連領域の知識	医療の基盤となっている基礎、臨床、社会医学等の知識を有し、応用する能力が身についている。
独創的探究心	疑問点を解決するために行動する独創的な学究精神と科学的能力が身についている。
診療の実践	安全かつ科学的根拠に基づいた適切な診療を実践する能力が身についている。
地域社会への貢献	地域の保健・医療・福祉の課題を理解し、その解決のために貢献する能力が身についている。

6段階の評価尺度は次の通りである。1：全く修得できていない、2：十分に修得できていない、3：ある程度修得しているが、最低水準には届かない、4：最低水準は修得できている、5：概ね修得できている、6：完全に修得できている。また、自由記載欄を設定し、「何でも結構ですのでコメントを御願います」と依頼した。この調査内容は過去3年度とも同一である。

設問毎に、各選択肢の回答数と未回答者を除く割合を示した。また、3年間の傾向を見るために、設問毎に、選択肢の4～6と回答、すなわち、「“最低水準は修得できている”または“概ね修得できている”または“完全に修得できている”」と評価された人数とその割合について示した。

4. 結果

(1) 2021年度卒業生研修先の調査結果

調査対象104人のうち79人について回答が得られた（回収率76.0%）。

表1に2021年度卒業生の各調査項目における回答の分布を示す。6つの項目のいずれにおいても、「“最低水準は修得できている”または“概ね修得できている”または“完全に修得できている”」と評価された卒業生の割合が70%以上であった。特に＜医師としてのプロフェッショナルリズム＞と＜コミュニケーション能力＞

ーション能力>は85%を超えた。また今回<独創的探究心>が初めて80%を越えた。一方<地域社会への貢献>は70%台前半にとどまった。

自由記載欄には43件の回答が寄せられた。設問でも評価されているコミュニケーション能力を高評価する意見が多く見られた。また、設問では尋ねられていない卒業生の性格・人柄（真面目さ、明るさ、元気さ、礼儀正しさ）や診療に対する努力（学ぶ態度、フットワーク）を評価する声も見られた。一方で、研修期間がまだ短いために評価が難しいとの意見も寄せられた。

(2) 2019～2021 年度卒業生研修先の調査結果の推移

2019・2020 年度の調査では、調査対象者（それぞれ112・102人）のうちそれぞれ82人（回収率73.2%）と81人（回収率79.4%）について回答が得られた。

表2・3にそれぞれ2020・2019年度の各調査項目における回答の分布を示す。また、図1に「最低水準は修得できている」または「概ね修得できている」または「完全に修得できている」と評価された割合の2019～2021年度の推移を示す。

<医師としてのプロフェッショナリズム>は過去3年度とも約85%以上と極めて高い割合で評価された。<コミュニケーション能力>は極めて高い割合で評価されているが、2021年度は2020年度に比べ減少傾向を示した。<専門職連携>、<医学および関連領域の知識>および<診療の実践>はいずれの年度も75%以上の卒業生が修得できているとの評価を得たが、このうち<医学および関連領域の知識>については2019年度以降減少傾向であった。一方、<独創的探究心>は2019年度以降経年的に上昇した。<地域社会への貢献>は7割台前半の卒業生が評価されるにとどまった。

5. まとめ

本調査結果から、本学医学部卒業生は卒業コンピテンス・コンピテンシーを高いレベルで獲得しており、そのことが研修先病院からも概ね評価されていることを明らかにできた。<医師としてのプロフェッショナリズム>、<コミュニケーション能力>、<専門職連携>、<医学および関連領域の知識>、<独創的探究心>、<診療の実践>、<地域社会への貢献>の7項目のいずれにおいても、各年度とも「最低水準～完全に修得できている」と評価された卒業生が70%を越えた。特に<医師としてのプロフェッショナリズム>と<コミュニケーション能力>への評価は過去3年度を通じて一貫して極めて高かった。<独創的探究心>が向上していることは評価に値する。一方、<医学および関連領域の知識>については2019年度以降低下しているが、自由記載欄ではコロナ禍により患者に接する機会が少なかった影響によるものではないか、との指摘があった。<地域社会への貢献>への評価は2019年度以来やや

低く、これらの能力をさらに高める教育が望まれる。

6. 謝辞

ご多忙のところ本調査にご協力いただきました病院ならびに関係者の皆様に御礼申し上げます。

表 1. 各設問の回答分布：2021 年度卒業生への評価

	全く 修得 できて いない	十分に 修得 できて いない	ある程度 修得して いるが、 最低水準 には 届かない	最低水準は 修得 できている	概ね 修得 できている	完全に 修得 できている
＜医師としての プロフェッショナリズム＞	医師としての責任感と職業倫理観に基づいて行動し、生涯にわたり 向上心を持ち自己研鑽に励む自覚と能力が身についている					
	0 (0.0%)	3 (3.9%)	7 (9.1%)	30 (39.0%)	34 (44.2%)	3 (3.9%)
＜コミュニケーション能力＞	お互いの立場を尊重し、相手から信頼される関係を築くための コミュニケーション能力が身についている					
	0 (0.0%)	2 (2.6%)	7 (9.1%)	18 (23.4%)	45 (58.4%)	5 (6.5%)
＜専門職連携＞	患者の健康問題の解決に向け、多職種での取り組みを実践する能力が 身についている					
	1 (1.3%)	1 (1.3%)	15 (19.5%)	30 (39.0%)	26 (33.8%)	4 (5.2%)
＜医学および 関連領域の知識＞	医療の基盤となっている基礎、臨床、社会医学等の知識を有し、 応用する能力が身についている					
	1 (1.3%)	2 (2.6%)	15 (19.5%)	33 (42.9%)	24 (31.2%)	2 (2.6%)
＜独創的探究心＞	疑問点を解決するために行動する独創的な学究精神と科学的能力が 身についている					
	2 (2.6%)	1 (1.3%)	11 (14.5%)	40 (52.6%)	20 (26.3%)	2 (2.6%)
＜診療の実践＞	安全かつ科学的根拠に基づいた適切な診療を実践する能力が 身についている					
	1 (1.3%)	2 (2.6%)	13 (17.1%)	32 (42.1%)	25 (32.9%)	3 (3.9%)
＜地域社会への貢献＞	地域の保健・医療・福祉の課題を理解し、その解決のために貢献する 能力が身についている					
	2 (2.6%)	5 (6.6%)	15 (19.7%)	34 (44.7%)	18 (23.7%)	2 (2.6%)

() : 未回答者を除く%

表 2. 各設問の回答分布：2020 年度卒業生への評価

	全く 修得 できて いない	十分に 修得 できて いない	ある程度 修得して いるが、 最低水準 には 届かない	最低水準は 修得 できている	概ね 修得 できている	完全に 修得 できている
＜医師としての プロフェッショナリズム＞	医師としての責任感と職業倫理観に基づいて行動し、生涯にわたり 向上心を持ち自己研鑽に励む自覚と能力が身についている					
	0 (0.0%)	0 (0.0%)	11 (13.6%)	32 (39.5%)	32 (39.5%)	6 (7.4%)
＜コミュニケーション能力＞	お互いの立場を尊重し、相手から信頼される関係を築くための コミュニケーション能力が身についている					
	0 (0.0%)	3 (3.7%)	2 (2.5%)	28 (34.6%)	36 (44.4%)	12 (14.8%)
＜専門職連携＞	患者の健康問題の解決に向け、多職種での取り組みを実践する能力が 身についている					
	0 (0.0%)	4 (4.9%)	12 (14.8%)	39 (48.1%)	22 (27.2%)	4 (4.9%)
＜医学および 関連領域の知識＞	医療の基盤となっている基礎、臨床、社会医学等の知識を有し、 応用する能力が身についている					
	0 (0.0%)	5 (6.2%)	9 (11.1%)	34 (42.0%)	32 (39.5%)	1 (1.2%)
＜独創的探究心＞	疑問点を解決するために行動する独創的な学究精神と科学的能力が 身についている					
	0 (0.0%)	3 (3.8%)	18 (22.5%)	38 (47.5%)	20 (25.0%)	1 (1.3%)
＜診療の実践＞	安全かつ科学的根拠に基づいた適切な診療を実践する能力が 身についている					
	0 (0.0%)	4 (4.9%)	11 (13.6%)	38 (46.9%)	26 (32.1%)	2 (2.5%)
＜地域社会への貢献＞	地域の保健・医療・福祉の課題を理解し、その解決のために貢献する 能力が身についている					
	0 (0.0%)	4 (4.9%)	19 (23.5%)	39 (48.1%)	18 (22.2%)	1 (1.2%)

() : 未回答者を除く%

表 3. 各設問の回答分布：2019 年度卒業生への評価

	全く 修得 できて いない	十分に 修得 できて いない	ある程度 修得して いるが、 最低水準 には 届かない	最低水準は 修得 できている	概ね 修得 できている	完全に 修得 できている
＜医師としての プロフェッショナリズム＞	医師としての責任感と職業倫理観に基づいて行動し、生涯にわたり 向上心を持ち自己研鑽に励む自覚と能力が身についている					
	1 (1.2%)	4 (4.9%)	6 (7.4%)	23 (28.4%)	33 (40.7%)	14 (17.3%)
＜コミュニケーション能力＞	お互いの立場を尊重し、相手から信頼される関係を築くための コミュニケーション能力が身についている					
	0 (0.0%)	2 (2.4%)	6 (7.3%)	22 (26.8%)	38 (46.3%)	14 (17.1%)
＜専門職連携＞	患者の健康問題の解決に向け、多職種での取り組みを実践する能力が 身についている					
	1 (1.2%)	0 (0.0%)	19 (23.5%)	34 (42.0%)	23 (28.4%)	4 (4.9%)
＜医学および 関連領域の知識＞	医療の基盤となっている基礎、臨床、社会医学等の知識を有し、 応用する能力が身についている					
	0 (0.0%)	2 (2.5%)	9 (11.1%)	41 (50.6%)	21 (25.9%)	8 (9.9%)
＜独創的探究心＞	疑問点を解決するために行動する独創的な学究精神と科学的能力が 身についている					
	1 (1.2%)	5 (6.2%)	18 (22.2%)	26 (32.1%)	26 (32.1%)	5 (6.2%)
＜診療の実践＞	安全かつ科学的根拠に基づいた適切な診療を実践する能力が 身についている					
	0 (0.0%)	2 (2.5%)	14 (17.5%)	26 (32.5%)	34 (42.5%)	4 (5.0%)
＜地域社会への貢献＞	地域の保健・医療・福祉の課題を理解し、その解決のために貢献する 能力が身についている					
	0 (0.0%)	5 (6.3%)	18 (22.5%)	28 (35.0%)	25 (31.3%)	4 (5.0%)

() : 未回答者を除く%

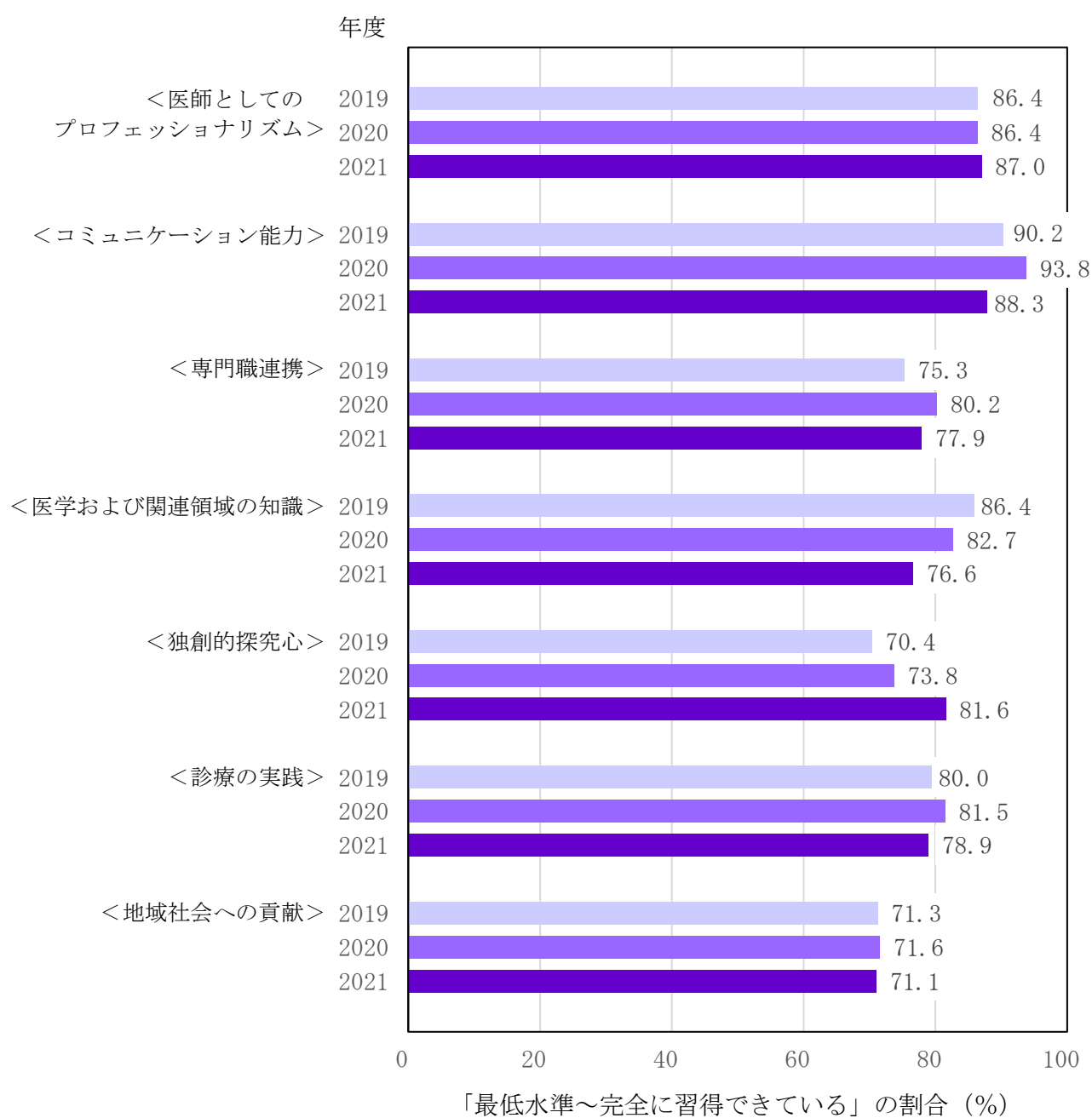


図 1. 「“最低水準は修得できている”または“概ね修得できている”または“完全に修得できている”」と評価された割合：2019～2021 年度卒業生への評価

資料 1. 依頼状 (A4、1 ページ)

臨床研修センター センター長 様

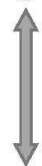
この調査票は、藤田医科大学 医学部が定める「卒業コンピテンス・コンピテンシー」に関する第三者評価です。コンピテンス・コンピテンシーとは資質・能力のことです。現在の医学教育は学修成果基盤型（アウトカムベース）となっており、卒業時に身につける能力・資質を最初に規定し、これが学修されたときに卒業を認めております。本学の卒業生が、その能力・資質をどの程度身につけているか、勤務先の上長の皆様に第三者の視点から評価をしていただくものです。

本調査結果は、個人が特定されない形で集計・解析し、今後の本学の教育活動の発展にのみ活用致します。各設問について、どの程度身につけているか、以下の6段階の尺度を用いて、マークしていただけますようお願い致します。

【評価尺度：6段階】

- 1：全く修得できていない
- 2：十分に修得できていない
- 3：ある程度修得しているが、最低水準には届かない
- 4：最低水準は修得できている
- 5：概ね修得できている
- 6：完全に修得できている

① できていない



⑥ できている

また、自由記載欄にコメントを頂ければ幸いです。

複数名の本学出身の研修医 1 年目が在籍する場合は、人数分の評価を御願い申し上げます。

藤田医科大学 医学部
学部長 岩田 仲生
学長補佐 石原 慎

資料 2. 調査票 (A4、1 ページ)

【医学部 コンピテンス・コンピテンシー】

研修医 1 年目の初日の能力・資質として御判定下さい。

No	評価項目	評価	●
1	＜医師としてのプロフェッショナリズム＞ 医師としての責任感と職業倫理観に基づいて行動し、生涯にわたり向上心を持ち自己研鑽に励む自覚と能力が身についている	① ② ③ ④ ⑤ ⑥	
2	＜コミュニケーション能力＞ お互いの立場を尊重し、相手から信頼される関係を築くためのコミュニケーション能力が身についている	① ② ③ ④ ⑤ ⑥	
3	＜専門職連携＞ 患者の健康問題の解決に向け、多職種での取り組みを実践する能力が身についている	① ② ③ ④ ⑤ ⑥	
4	＜医学および関連領域の知識＞ 医療の基盤となっている基礎、臨床、社会医学等の知識を有し、応用する能力が身についている	① ② ③ ④ ⑤ ⑥	
5	＜独創的探究心＞ 疑問点を解決するために行動する独創的な学習精神と科学的能力が身についている	① ② ③ ④ ⑤ ⑥	
6	＜診療の実践＞ 安全かつ科学的根拠に基づいた適切な診療を実践する能力が身についている	① ② ③ ④ ⑤ ⑥	
7	＜地域社会への貢献＞ 地域の保健・医療・福祉の課題を理解し、その解決のために貢献する能力が身についている	① ② ③ ④ ⑤ ⑥	
●			●

自由記載（何でも結構ですのでコメントをお願いします。）

施設名：